



湯沢市

ふじ た とよひさ
藤田 豊久 さん

東京大学名誉教授



湯沢市での講演から

私が今まで暮らした場所が一番長く住んでいた所は秋田で、約20年間過ごしました。市出身の作詞家である東海林良様とは十数年前に出会い、以降、湯沢市とは長いご縁になりました。このたび、市の職員の皆様とお会いし、一緒に湯沢市の未来を考える機会を得ましたので、次にその講演内容の概要を示します。

1. はじめに（講演目的と背景）

湯沢市の環境・エネルギー課題にAIと未来技術を融合させ、地域資源を生かした持続可能なモデルを描くこと。人口減少（対策をしなければ2050年には約2万人と推定）および高齢化、豪雪、地産エネルギーの域外流出が課題

2. 湯沢市の強み

・地熱資源は全国有数の規模、複数の発

電所が稼働中

・多様な再生エネが存在。地熱の他に水力、バイオマス、太陽光。温泉と文化は観光・移住促進の基盤となる

3. 未来ビジョン

・再生エネ主力化と地熱由来水素製造が期待される。地域内エネルギー循環。災害時でも自立。雇用の創出

・循環型社会と農業

4. 提案

・スマート農業の活用（自動トラクター、ドローン、地熱利用）

・助け合いによる除雪支援。温泉を利用した仕事と休暇を合わせたワーケーションの効能を全国にアピール。インバウンドも含めて湯沢で体験できること（祭り、ジオパークの自然や風景）のPR

・人材育成とDX

地方でできる仕事をアピール。テレワーク推進（場所を選ばないテレワーカーの仕事、女性や若者が好む仕事、東京と同程度の収入、フルタイムではなく自分が好きな場所で好きな時間に仕事ができる環境）

6. おわりに（湯沢市へのメッセージ）

雪と地熱という稀有な資源を生かし、再生エネ・農業・観光・AIを融合させ、湯沢市は日本・世界に誇れるモデル地域になれます。地域の知恵と挑戦を結集し、笑顔と誇りある未来を共に創りましょう。



講演内容のPDFは
こちらから

ゆざわの文化財

生涯学習課文化財保護室 ☎ 55-8193



かわむかい はたとうむらさかい え ず 川向・畠等村境絵図

「川向・畠等村境絵図」は元文三（1738）年に描かれた、皆瀬地域の村境を記した絵図です。当時、この地域は畠等村と川向村とに分かれていました。しかし、村境が明確でなく、それぞれの村で税金が異なっており、そのことを憂慮した二村の代表は村境をはっきりさせるため役人に測量を依頼しました。その際に作成されたのがこの絵図です。

皆瀬の今昔展

～湯沢市文化財保存活用地域計画 皆瀬地域モデル事業～

「川向・畠等村境絵図」のほか皆瀬地域で出土したナウマンゾウの歯の化石や同地域で行われていた公民館結婚式の婚礼道具など皆瀬地域にまつわる文化財を多数展示します。また、板戸番楽保存会（市指定無形民俗文化財）の皆さんに板戸番楽の成り立ちや番楽の内容などを詳しく解説していただきます。

たくさんの方のご来場をお待ちしています。

■日 時 11月22日(土)・23日(日)／午前9時～午後4時30分
※板戸番楽に関する講演は、23日(日)午前10時から
■場 所 市役所皆瀬庁舎
■共 催 湯沢市教育委員会・湯沢市皆瀬文化財保護協会



市ホームページ